



仙台奥羽ロータリークラブ

令和 8 年 9 月月報

奥羽九月紀

今月の歩み

九月は、三回の定期例会と第十六回「異と和」集会を通して、奉仕事業の成果、個人の時間と働く場所、退院後の地域リハビリを考えた。地区補助金については、資金の使途からではなく、地域に残したい変化から事業を組み立てる方針を共有した。就労支援ウェブサイト構想は、当事者や施設の実情、運営の担い手、継続性を確かめながら検討を続ける。青少年交換の推薦を進め、熊本地震支援金十三万一千円を送金した。丸森では漆の草刈り、蕃山では登山口の整備を行い、次の活動へ向けて足元を整えた。

一日 事業の種を量る

一日の第二百三十九回例会では、地区補助金管理セミナーの学びが披露された。資源を投じ、活動を行い、その成果を見て、さらに地域に残る変化を問う。いわゆるインプット、アウトプット、アウトカム、インパクトの順である。高橋会長らは、補助金を得ることから企画を始めず、補助金がなくとも取り組みたい事業を育てるべきだと説いた。田仲次期会長と連携し、来期事業の協議を十月から始めることとなった。

青少年交換の候補者は、異文化を理解し、合気道を通して礼儀と尊重を伝え、将来の仕事に経験を生かしたいと述べた。理事会はその志を認め、推薦を承認した。事業の種も人の志も、まずその姿をよく見るところから始まる。

六日 時間と住まう場所を問う

六日の第十六回「異と和」では、AI などによって週に一日の時間が生まれたなら、何に使うかを語り合った。家族、学び、子どもたち、町内の営み、漆や海岸林。社会貢献は遠い大事業に限らず、日々の買い物や健康を保つことにも見いだされた。一方、転勤の移動に費やす時間が、せっかく生まれた余白を消すとの声もあった。

対話は「働く場所を誰が決めるか」へ進んだ。転勤を機会と見る人がいる一方、家族や地域とのつながりを失う痛みを語る人もいる。そこで、会社という共同体に属しながら、足元の地域の市民でもある私たちは、自らの時間をどう行使するのか、との問いが現れた。結論を一つに閉じず、それぞれが「今ここでできること」を持ち帰った。

八日 与える前に実情を聞く

第二百四十回例会では、就労支援をめぐるウェブサイト構想が議題となった。事業所の情報を集め、当事者や家族が選びやすくする案である。しかし、対象は誰か、運営を誰が担うか、情報を更新し続けられるか、既存の事業とどう関わるか。会員は問いを重ねた。

まず構想の叩き台を示し、会員や施設の実情を集め、地区にも補助金の扱いを早めに照会する。特定案への決定は行わず、漆や環境保全を含む複数の案を比較していくこととなった。支援を受ける側の声を聞き、長く続く仕組みを考える。その姿勢が、この月の奉仕の議論を支えた。青少年交換の推薦文もこの日承認され、十五日には発送準備が整った。

十三日と十五日 手と専門性をつなぐ

十三日、丸森の漆プロジェクトで草刈りが行われ、大人十名、子ども二名が参加した。十五日の第二百四十一回例会では、その手応えが報告された。次の活動は十月十一日に予定され、草刈りの後には芋煮会も計画されている。

同日の卓話には、理学療法士で「リハエール」代表の小柳穂氏を迎えた。氏は急性期病院での経験から、退院後に専門職との接点が細くなる現実を語った。心不全などの再発予防には、病院での治療に続く生活の支えが要る。保険制度の枠を踏まえつつ、施設への専門性の提供や自費の支援を組み合わせ、医療と地域の間をつなぐ道が論じられた。

個人の健康を選ぶ力、単身高齢者への訪問支援、専門職を必要な人へ結ぶ仕組み。会員の意見は一つの制度へ収まらず、暮らしの現場を見据えた。九月十日には熊本地震支援金十三万一千円を地区ガバナ―事務所へ送金した。

月の末へ 道をひらく

二十日には、雨で延びていた Camino de Banzan の登山口整備を実施した。十月に市民を迎えるため、まず調査登山へ進む。道を歩く人がまだ見えぬうちに、足元の草を払う。漆の圃場も、退院後の暮らしも、これからの事業も、入口を整える人の手から始まる。

九月二十二日は祝日、二十九日は第五週につき休会。次の定期例会は十月六日。九月に蒔いた問いが、次の月にいかなる形を取るか、奥羽の会は引き続き見届ける。

月次記録

理事会 一日に青少年交換候補者の推薦を承認。八日に推薦文を承認。十五日はキャンプ企画の日時・場所などを整理して後日提案を受けることとした。

クラブ協議会 来期事業と地区補助金の検討を十月から始める。就労支援案は叩き台と現場の情報を集め、補助金の扱いを地区へ確認する。短期交換に伴う受け入れ規定も地区に確認する。

委員会・地区活動 九月十三日に漆の草刈り、二十日に Camino de Banzan の登山口整備を実施。九月七日の在仙十一 RC 合同幹事会には宮幹事が出席。

来訪者 八日の例会に秋田陽子様（仙台レインボーRC）、十五日の卓話に小柳穂様（リハエール代表）が参加。

次月以降 十月六日に次回定期例会。十月十一日に漆プロジェクトの草刈りと芋煮会を予定。十一月十五日に第十一回総会・懇親会を予定する。

記録の範囲 九月一日・八日・十五日の例会議事録、九月六日の「異と和」記録。九月二十日の整備実施は別途共有された活動報告に基づく。

9月13日(日) URUSHI PROJECT 草刈り



9月20日(日) Camino de Banzan 登山口整備

